

〔 一般教養科 〕

〔 区 分 A 〕

平田 隆一郎

地域資源（別子銅山）を活用した課外学習活動の取組み

平田隆一郎*1、竹原信也*2、松田一秀*3、安里光裕*3、柳井忠*3、塚野修*1

*1 新居浜工業高等専門学校一般教養科、*2 奈良工業高等専門学校一般教科、*3 新居浜工業高等専門学校数理科高専教育、第38号、(2015.印刷中)

新居浜高専がある愛媛県新居浜市は別子銅山によって発展してきた町である。別子銅山は元禄4年(1691)に開坑し、昭和48年(1973)に閉山となるまで一貫して住友が経営した銅山である。特に明治以降に事業の近代化、すなわち鉱山鉄道、水力発電所、精錬技術の近代化に取り組み、大きな発展を遂げ、住友グループ発展の礎となり、日本の貿易や産業の近代化に非常に大きく貢献した銅山である。

この別子銅山の歴史、および、産業遺産には、創造的技術者の養成を主軸とする新居浜高専の学生にとって学ぶべき事柄が多岐にわたって存在する。そもそも別子銅山は、海拔約1300mの高さから、海拔約-1000mの深さまで山の原型をとどめたまま坑道を掘り下げており、そこには多くの技術が実践されている。気温40度、湿度99%を超え、光や音のないヤマの中で、技術者達は鉱床を調査し、エレベーターや電線、貨車と線路、ショベルカー等を入れ粗銅を取り出し、精銅をした。別子銅山の歴史とは、技術者が知恵を集め工夫をしながら、自然の困難さと向き合い続けたという歴史でもあるのである。

新居浜高専一般教養科・数理科はこのことに着目し、平成24、25年度の2年間、低学年(1・2年生)教育における取組として特別活動の時間等を活用して、エンジニアという観点から、別子銅山の歴史学習に取り組んだ。1年生時に、まず別子銅山の歴史について新居浜市の文化遺産課の協力の下、講話を行った。次に実際に鉱山の中で地質課の職員として鉱床調査に従事していた元技術者の方を招いて当時の仕事の様子などについて講話をしていただいた。まとめとして、2年生時の学外研修として別子登山を実施し、多くの産業遺跡を実際に見ることによってそれまでの学習の理解をさらに深めた。

本稿では一連の学習取組の過程を報告するとともに、本取り組みの成果と課題を報告する。報告を踏まえ、地域資源を活用した技術者教育や地域と連携しながら高専での教育を行うことの意義や可能性について考察する。

〔 区 分 D 〕

伊藤 直子

大学入試問題検討委員会報告(14)

伊藤直子*

* 新居浜工業高等専門学校一般教養科

ドイツ語教育 19 (日本独文学会ドイツ語教育部会)、pp164-175、(2015.3)

日本独文学会ドイツ語教育部会大学入試問題検討委員会は、ドイツ語教育の底辺の拡大と教育内容の充実を目的として、主に大学におけるドイツ語教育という枠内で論じられてきたドイツ語教育論の枠組みを再考し、高等学校など若年層に対するドイツ語教育を普及させるべく、高等学校と大学の間にあるドイ

ツ語入試が両者にどのように認識され、その認識が教育上どのような影響を与えているのかを検討している。

本報告は、委員会の年間の主な活動内容として、2014 年度大学入試について、1) 国公立大学における個別試験の実施状況調査の結果、2) 大学入試センター試験を利用した入試を実施する大学に関する調査の結果、および、3) 大学入試センター試験で出題された問題の分析結果の3点について報告し、更に、今後のドイツ語入試のあり方について提言を行ったものである。